

佐藤栄佐久氏のドキュメンタリー映画『知事抹殺』の真実を見て ～共謀罪廃止を考える集い～

日時：2018年4月15日（日）映画と講演 13:00～17:50（開場 12:45）
場所：明治大学リパティホール
主催：沖縄の「基地と行政」を考える大学人・研究者の会
共催：明治大学 島嶼文化研究所
参加費：1,000円（資料代として）

佐藤栄佐久氏は、東京大学法学部を卒業後、参議院議員、大蔵政務次官を経て、1988年に福島県知事選に当選。東京一極集中に異議を唱え、原発問題でも闘う知事として名を馳せ、5期18年にわたり県知事の座にあった。しかし、2006年、官製談合事件で知事を辞任、その後逮捕される。2009年10月1審に続き2審でも有罪となるも、「収賄額ゼロ円」という前代未聞の認定となった。2012年10月上告棄却、有罪が確定した。収賄額の認定がゼロ円なら、当然無罪であるはずである。こんな”無法”があつていいだろうか。

主催者挨拶 桜井国俊「沖縄の今と日本劣化～北京より」（沖縄大学名誉教授 環境学）

【第1部】13:00～15:00 第1部講演 司会 清川紘二（沖縄の「基地と行政」を考える大学人・研究者の会共同代表）
『知事抹殺』の真実 上映佐藤栄佐久氏のドキュメンタリー *上映後休憩あり

佐藤栄佐久氏のドキュメンタリー映画『知事抹殺』の真実

佐藤氏の弟は、東京拘置所の取調室で、担当検事から「知事は日本にとってよろしくない。いずれ抹殺する」と言われていた。これが事件の本質だったか。佐藤知事在職中、東京電力福島第一・第二原発での事故やトラブルを隠ぺいする、国や電力会社の体質に、福島県210万県民の安全のため、厳しく対峙していた。「賄賂の金額がゼロ」ならば無罪のはずであるが、この決定は今後の日本に間違いなく禍根を残す。

15:00～16:00

報告・佐藤栄佐久（元福島県知事、『日本劣化の正体』の著者）からの「東電との闘い」及び政府による国策捜査の罨についての講演

2011年の3・11東日本大震災以降、脱原発社会の実現を目指して講演・執筆活動に励む。日本は「原子力帝国」なのである。原発の再稼働は、事故後鳴りを潜めていた原子力村が本格的に復活したことを意味する。講演では、著書『日本劣化の正体』から、「脱原発知事を抹殺せよ」、「原子カムラ」との闘い18年、日本は「原子力帝国」だった、の章についてご経験をお話いただき、映画『知事抹殺』の真実について、改めて所信を述べていただく。



【第2部】16:00～16:50

報告・三宅弘「日本の監視社会化と情報公開から、採決強行された共謀罪の廃止について考える」

スノーデン・ショックによって内部告発された市民監視は、政府による監視社会化を進行させている。他方で、森友・加計問題での公文書の扱いなど、情報公開と公文書管理も、劣化している。2017年7月参議院本会議での中間報告の後に、いわゆる共謀罪も、審議を尽くさず成立した。市民の内心を捜査する危険から、戦前の治安維持法の再来は防がなければならない。氏は、東京大学法学部卒業。1983年弁護士登録（第二東京弁護士会）。

日本弁護士連合会情報問題対策委員会委員長、内閣府・国民生活審議会委員、日本弁護士連合会副会長、第二東京弁護士会会長、内閣府公文書管理委員会委員などを歴任。

著書『原子力情報の公開と司法国家—情報公開法改正の課題と展望』（日本評論社）など。

16:50～17:50

鼎談（or 対談）上記報告者と語る（質疑応答を含む）

聞き手・白石孝（プライバシー・アクション代表）

氏は、NPO法人官製ワーキングプア研究会理事長、共通番号いらぬネット世話人、荒川区職員労働組合顧問（前書記長）など。

著書『マイナンバー制度／番号管理から住民を守る』（自治体研究社）

『ソウルの市民民主主義—日本の政治を変えるために』（コモンズ）



【連絡先】

TEL: 03-3341-5271 原後総合法律事務所内 三宅

佐藤栄佐久氏のドキュメンタリー映画『知事抹殺』の真実を見て ～共謀罪廃止を考える集い～

日時：2018年4月15日（日）開場 12:45 開演 13:00

会場：明治大学リパティホール

参加費：1,000円（資料代として）

主催：沖縄の「基地と行政」を考える大学人・研究者の会

共催：明治大学 島嶼文化研究所

問い合わせ：TEL 03-3341-5271 原後総合法律事務所内 三宅

